

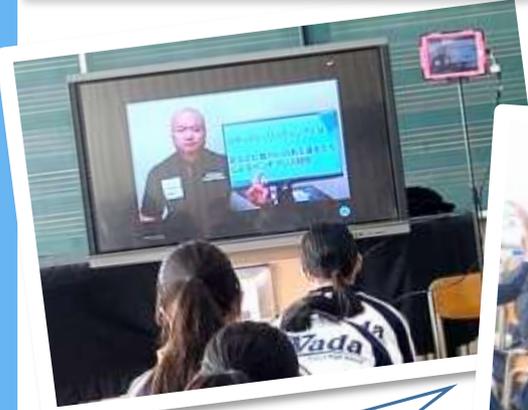
コロナに負けない 和田中学校

和田中学校では、コロナ禍でも学びを止めません。安心、安全な学校生活を確保しながら、常に、今できることを模索し、生徒と共に歩み続けています。

1/14(木)あすチャレ！(1年生)

あすチャレ！ジュニアアカデミー（日本財団パリンピックホップセンター）

障がいのある人も、ない人も、思いやり、支え合い、違いを受け入れて、よりよい社会を創るための第一歩を踏み出す授業です。



リアルタイムのオンライン授業の形態で実施しました。馬島さんの問いかけに手を挙げて答えているところ。

講師はアイスレッジホッケーバンクーバーパラリンピック銀メダリストの馬島誠さん。現在は、パラパワーリフティングで東京パラリンピックを目指しています。

あきらめない心や、人の笑顔のために行動すること、困っている人がいたら助けることができる人になってほしいとメッセージをいただきました。

1/22(金)ボッチャ体験(1年生)

＜東京ヴェルディ出前授業＞

障がい者スポーツ指導員を招き、障がい者スポーツ体験教室を行いました。パラリンピックの正式種目であるボッチャを体験しました。誰もがスポーツを楽しめる社会を目指し、スポーツを通して、社会の障がい者に対する理解促進につなげる授業です。



うれしいお知らせ

オンライン英会話(2年生)

1/25(月)～29(金)

2年生今年度2回目のオンライン英会話でした。フィリピンの講師の方とオンラインでつなぎ、一対一の会話体験をしました。回を重ねるたびに、自信がつき、コミュニケーション力も上がってきます。



令和2年度東京都明るい選挙ポスターコンクールに作品をよせた2年生の取組が認められ、和田中学校の選挙の啓発活動に対して、感謝状をいただきました。

多摩都市モノレール「第7回五行歌」。受賞した和田中生4名の作品が多摩都市モノレールの各駅校内で2/28まで展示されています。詳細は右QRコードよりご確認ください。



昨年の12/24(木)学校の花壇にPTA役員の皆様にお花を植えていただきました。ソーシャルディスタンスを確保しながら作業していただいたお花は、今もきれいに咲いています！



和田トーク (生徒会)
1/26(火)、28(木)



いじめ撲滅のために、生徒会が動き出しています。和田中学校のいじめ防止に対して、生徒会として考えていることを、大学生とのウェブ会議を通して、整理・発展させる取り組みをしています。中央大学の学校応援プロジェクト(昨年度、WGG(和田グローバルゲートウェイ)～学校にいながら留学体験～でもお世話になりました。)の協力の元、「いじめとは何か」「なぜ、いじめはいけないのか」をテーマに、2回のウェブ会議で深めてきました。今年度あと2回のウェブ会議を予定しています。全校生徒の皆さんも、いじめ防止について考えてみましょう。

2/2(火)福祉セミナー(1年生)

「フクシを知ろう!なんでもセミナー」
(東京都社会福祉協議会 東京都福祉人材センター)
2名の講師と3名のガイドヘルパーの方をお迎えしました。講師の、小林様(NPO法人多摩市障害者福祉協会)、瀬尾様(多摩市視覚障害者福祉協会)のお二人から、点字版や点筆、白杖、盲導犬を間近に、できないことではなく、できることに目を向けることが大切であることや、その積み重ねが、今日の皆さんとの出会いにもつながっている、コロナでできないではなくぜひできることにチャレンジしてほしいとお話がありました。



昼プロ (毎週火曜日)

1月は、1年生と3年生で実施しました。3年生は冬休み特別号でお知らせした Selena Gomez (セレーナ・ゴメス) さんのスピーチを扱った講座、1年生は身の回りの題材で英語を考える講座を行いました。



学習展示 (全校)

校内に授業で制作した作品を展示しました。他学年の作品を鑑賞し、来年度をイメージしたり、懐かしさを感じたり、お互いの頑張りを認め合ったりといろいろな感想が寄せられました。



SDGs

東京新聞1/30(土)版で和田中学校のSDGsの取組、図書室の活動が紹介されました。

2021年(令和3年)1月30日(土曜日) 16

編集後記拡大版
月刊SDGs(1月号)11月の頒布あまねくに作っていただいたSDGsノートを紹介しました。月刊SDGsの記事や、ほかの気になる記事を活用して、感想や自分の考えをまとめてみました。この記事をきっかけに、本校でもSDGsノートの制作をすすめていきたいと思います。

本紙活用!!

東京新聞1/30(土)版で和田中学校の活動紹介

SDGsノートの制作が、SDGsの推進活動の一環として行われてきました。SDGsノートの制作は、過去の記事も活用しながら進めています。インターネットだけでなく、情報収集も活用して、SDGsノートを作っています。SDGsを身近なものから考え、自分ができるように表に出す作業が習慣になるように進めています。(編集部)

特に若い世代で新聞購読が減少する中、私たちも、デジタルでのポイントを広げる努力をしながら、紙の良さも知ってもらえたらと、紙の購読を続けています。SDGsをどう実装するかという

SDGsノートの制作が、SDGsの推進活動の一環として行われてきました。SDGsノートの制作は、過去の記事も活用しながら進めています。インターネットだけでなく、情報収集も活用して、SDGsノートを作っています。SDGsを身近なものから考え、自分ができるように表に出す作業が習慣になるように進めています。(編集部)

SDGsノートの制作が、SDGsの推進活動の一環として行われてきました。SDGsノートの制作は、過去の記事も活用しながら進めています。インターネットだけでなく、情報収集も活用して、SDGsノートを作っています。SDGsを身近なものから考え、自分ができるように表に出す作業が習慣になるように進めています。(編集部)

図書室に専用コーナー

ではSDGsノート作りを生徒たちにも呼びかけているので、加納一志校長と、図書室の福井明子先生に話を聞きました。

加納校長は「昨年度の数年、グローバル化が進む中で、世界の課題解決という視点が立派に、中学校の教育は成り立たない」と強く語り、四月からは「持続可能な社会の創り手」養成が目的とされた新学習指導要領が、中学校でも導入されます。

SDGsノート作りを呼びかける福井明子先生と加納一志校長。東京新聞多摩市の取材の中で